第５学年　国語科書写学習指導案

令和４年６月８日（水）第５校時
江戸川区立〇〇小学校　第５学年　組　　名
指導者　教諭

研究主題	書写の能力を高め、日常に生かす学習指導の工夫
高学年分科会の目指す児童像	「書写で培った力を、日常生活の中で活用できる児童」

１　単元名　　文字の組み立て方（中と外）と、穂先の動き
【教材文字】「**道**」

２　単元の目標
中と外の部分の組み立て方と、穂先の動きに気を付けて文字を書くことができる。

３　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○中の部分が文字の中心から少し右にずれていることを理解している。 ○「しんにょう」を書くときの穂先の動きを理解して書いている。	○試し書きと基準を比較し、自分の課題をつかんでいる。	○課題解決に向け、意欲的に練習に取り組んでいる。 ○学習したことを日常の書字に生かそうとしている。

４　単元設定の理由
（１）指導事項の意義
学習指導要領において、第５学年及び第６学年の書写指導については、「知識及び技能」の目標「（３）我が国の言語文化に関する事項」に次のように示されている。

エ　書写に関する次の事項を理解し使うこと
・用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。
（イ）毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
（ウ）目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

るように指導を進める。
まず、中と外の組み立て方として、文字の中心を意識させ、「しんにょう」と中の部分「首」の配置について理解させる。そして、文字の組み立て方にのみ着目してまとめ書きを書かせるため、予め、「しんにょう」の位置を示したまとめ書き用紙を使用する。
次に、「しんにょう」の筆使いについて、練習をさせる。ICTを活用し、穂先の動きや筆圧の変化を理解させ、字形を整えて書けるようにする。そして、練習したことを生かし、「**道**」全体のまとめ書きを行う。
本単元の導入では、自分の試し書きと基準を比較し、文字の組み立て方と「しんにょう」の筆使いについての自分の課題を見つけられるようにする。終末では、まとめ書きと試し書きを比較し、組み立て方と「しんにょう」の筆使いについての自己評価、相互評価をさせることにより、成果を実感できるようにする。
「しんにょう」は、筆使いが難しく、児童にとって字形を整えにくい。また、中の部分の中心が文字の中心とずれるため、中と外の部分の組み立て方を正しく整えて文字を書くことは難しい。本単元

では、毛筆の学習を通して、普段の自分の文字の課題を振り返り、硬筆で書く活動に生かせるようにする。そして、本単元で培った力を、日常生活の中で活用できるようにしたい。

（2）本単元における知識及び技能　　**※ゴシックは初出事項**

用語・指導事項	一画目、二画目…　始筆、終筆、送筆、横画、縦画 とめ、折れ、、折れ返し、点、左払い、右払い 筆順、字形、文字の組み立て方、筆使い、文字の中心

（3）指導事項の系統

学年	筆使い	字形	学習場面や日常に生かす
（水書用筆含む） 硬筆 一年、二年	・鉛筆の持ち方 ・終筆（止め、はね、払い） ・送筆（折れ、折れ返し、曲がり、反り、結び） ・基本点画（横画、縦画、点、回り、大回り）	・外形 ・文字の中心 ・点画の組み立て方 （方向、長さ、点と画の間 付き方と交わり方）	各教科のノート 自己紹介カード 観察カード 学期ごとのめあて 係活動表 お楽しみ会プログラム 招待状　　など
硬筆・毛筆 三年、四年	・筆の持ち方 ・始筆 ・送筆 ・終筆 ・筆圧 ・基本点画	・部分の組み立て方 （左右、上下、かまえたれ）	各教科のノート 自己紹介カード 観察カード 学期ごとのめあて 係活動表 お楽しみ会プログラム 招待状 俳句　詩 新聞　作文　　など
硬筆・毛筆 五年、六年	・点画のつながりと字形 ・点画のつながりと読みやすさ ・筆順と点画のつながり	・部分の組み立て方 （にょう） ・部分の組み立て方 （三つの部分）	学期ごとのめあて 係活動表 お楽しみ会プログラム 招待状　プログラム 詩　短歌　俳句 新聞　作文 クラブ・委員会からのお知らせ きまり・目標 行事のめあて ポスター　新聞 卒業文集　　など

5　研究の視点

（1）様々な筆記具を生かす学習の工夫

①正しい姿勢を身に付ける。

・合い言葉で確認し、正しい姿勢と鉛筆の持ち方を意識付ける。

・正しい姿勢図を掲示し、視覚的に確認しやすいようにし、常に意識できるようにする。

②筆記具の種類を知り、正しい筆記具の持ち方を身に付ける。

・本単元では、赤ペン、筆、６Bの鉛筆を使用する。

・他教科等への活用では、水性マーカーを使用する。

③正しい基準を理解する。

・筆順、点画の書き方を音声化、言語化することで、正しい理解を促す。

・筆順の確認をするために「空書き」を行う。

（２）自分の課題をもち、主体的に解決する学習過程

①自分の課題への気付きを促す工夫を図る。

・試し書きと基準文字を比較し、自分の課題となる箇所に印を付けたり、言葉を書いたりして、本単元の共通課題に応じた個別課題を設定できるようにする。

・運筆や筆順などについて分かりやすく確認できるように動画を活用する。

・教師が児童の書字過程を観察し、適切な指導・助言を行い、運筆能力の向上を図る。

②課題解決に向けた主体的な学習を行えるようにする。

・課題解決に向け、半紙を折ったり、練習用紙を活用したりしながら練習する。基本的な練習用紙の例（「しんにょう」との位置関係、中心との位置関係、「しんにょう」の筆使い等）を提示し、自分で練習用紙を作成できるようにする。

・電子黒板で基準の書き方をリピート再生し、いつでも見られる状態にしておく。

（３）日常の手書き文字に生かす工夫

①文字環境を整える。

・文字感覚を養うために、日常の板書や掲示物等の文字環境を整える。

②目的意識・相手意識をもたせる。

・誰に、何のために書くのかということを意識させることにより、読む相手への思いやりの気持ちを醸成する。

③日常の書字活動へ活用する。

・毛筆でのまとめ書きの後、硬筆でもまとめ書きをすることで、毛筆で学習したことを硬筆に生かせるようにする。

・他の「しんにょう」の文字の組み立てかたを考え、他の文字に生かす活動を行う。

・学習したことを、各教科等、連絡帳、学習ノート、係活動、観察カード、学期のめあてなどでの書字活動に生かすことができるよう、既習事項について言葉掛けを行う。

④振り返りの時間を確保する。

・試し書きとまとめ書きを比べ、めあてを振り返り、日常に生かしたいことを確かめる。

（４）学び合いを取り入れた学習活動

①教材文字について話し合う。

・教材文字を書く際のポイントを話し合い、めあてに向けた課題解決意識をもつ。

②書字過程における学び合いの時間を設定する。

・書字過程で児童相互が見合う時間（アドバイスタイム）を設定し、書写用語を用いて互いに助言や賞賛し合うことで課題解決に迫ることができるようにする。

・教師が児童の書字過程を観察し、適切な指導・助言・支援を行い、運筆能力の向上を図る。

③自己評価・相互評価を行う。

・書写カードを活用して、自分の課題を振り返り、解決に向けての過程やまとめ書きについての自己評価を行う。

・書字過程を見合ったり、試し書きやまとめ書きを比較したりして、相互評価を行う。

・机間指導における教師の助言や称賛を通して、めあてに合わせて書けているか確認をし、学習意欲を高めていく。

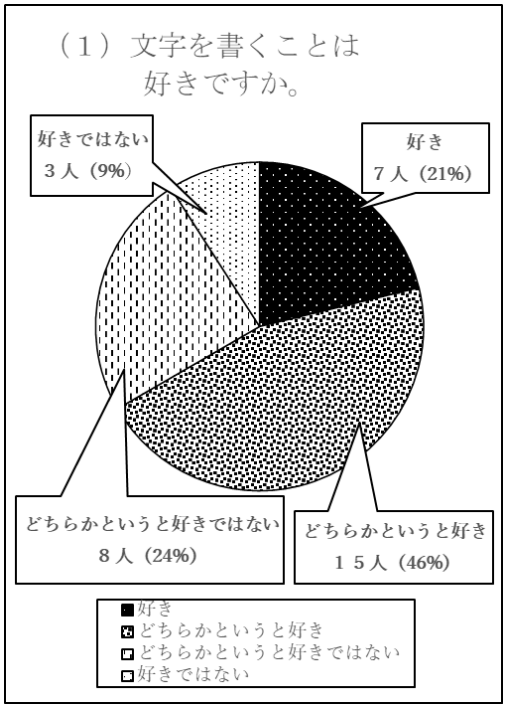
・試書きとまとめ書きを比較して、基準に沿った評価をする。学級全体で、友達の学習成果を知る。

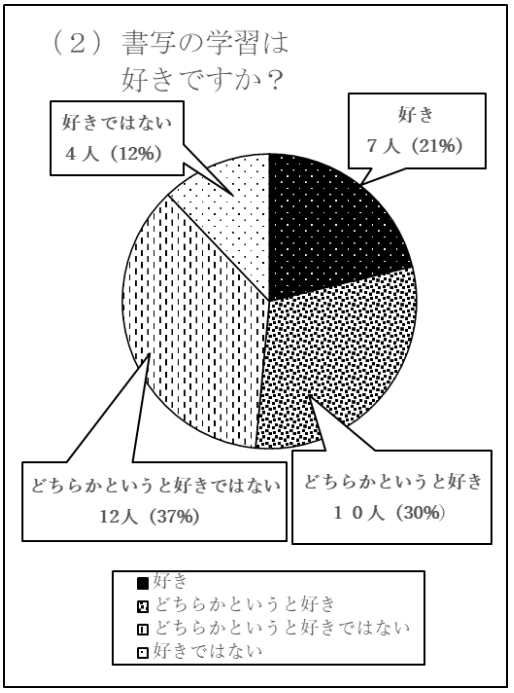
6　児童の実態

（1）書写の学習に関するアンケート結果　（令和４年５月　日実施　　名）

「文字を書くことが好きですか」という設問では、「好き」「どちらかというと好き」と回答した児童が22名（67%）おり、「どちらかというと好きではない」「好きではない」と回答した児童は11名（33%）であった。また、「書写の学習は好きですか」という設問は、17名（51%）の児童が「好き」「どちらかというと好き」と回答し、「どちらかというと好きではない」「好きではない」と回答した児童は16名（49%）であった。

回答理由を見ると、「文字をきれいに書けるとうれしい」「上手に書けると気持ちがよい」と

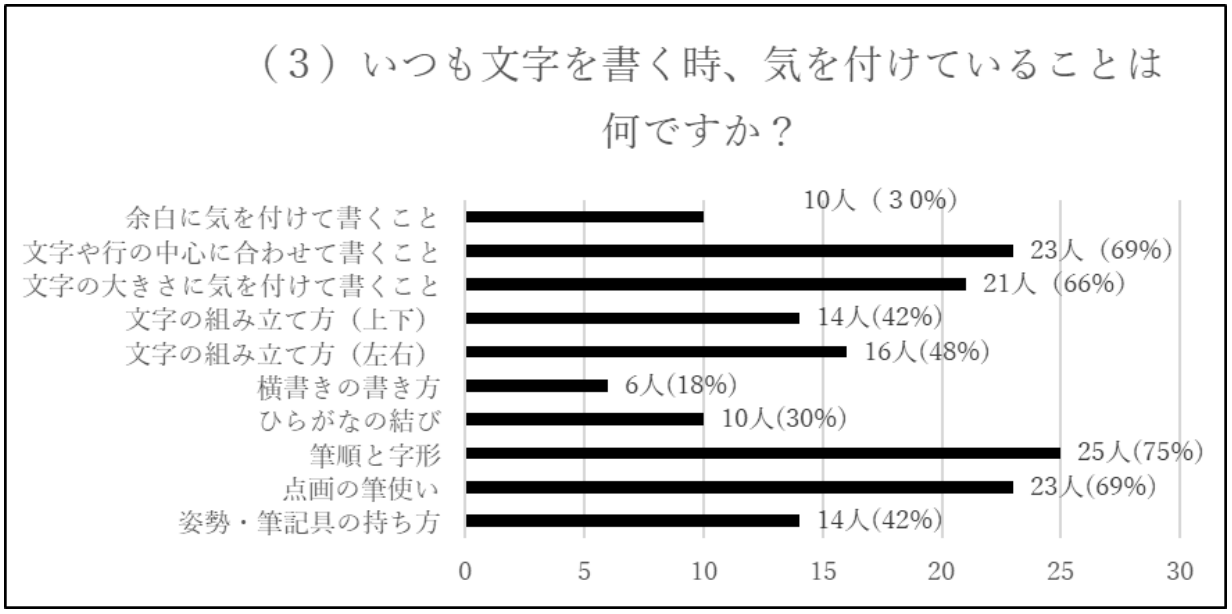




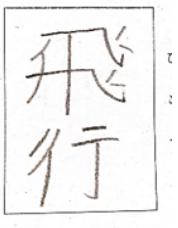
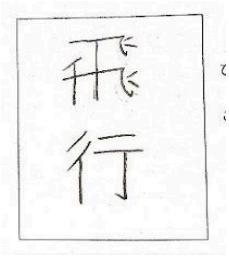
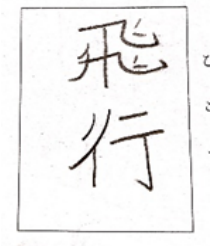
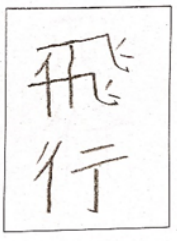
いった思いをもっている児童がいる反面、「文字を書くことが苦手だから」「手が痛くなって面倒だからパソコンで打つのが好き」といったように文字を書くことに苦手意識や抵抗感をもっている児童も多いことが分かる。また、書写（毛筆）の学習を行うことに関しては「鉛筆で書くのとはまた違う感覚で楽しい」「少しずつ文字がうまくなって嬉しい」など、書写が好きな児童は学級の半数を占める。しかし、「筆の扱い方が難しくてうまく書けない」「集中力が続かない」など、好きではない児童も多い。

そこで、文字を書く際に気を付けるポイントをしっかりと全体で確認し、自分の課題をもちながら主体的に書写の学習に取り組めるようにすることが大事だと考える。また、筆使いに慣れさせ、学習の最初と最後には文字の書き方に変化がみられるようにしたい。このようなことを積み重ね、毛筆を硬筆につなげることで、児童一人一人が自分の文字に自信をもち、意欲的に書写の学習・書字活動に取り組めるようにしたい。

文字を書く時、「文字や行の中心に合わせて書くこと」は23名（69%）、「文字の大きさに気を付けて書くこと」は21名（66%）と学級の70%程度の児童は文字や行の中心を意識して文字を書き、大きさに気を付けていることがわかる。しかしながら、「余白に気を付けて書くこと」は10名（30%）と、余白を意識して書いている児童が少ないということがわかった。



（２）「**道**」の組み立てと「しんにょう」の筆使いに関する児童の実態調査

	中と外の組み立て	「しんにょう」の筆使い
概ねできている	○中の部分の中心が文字の中心から右に少しずれており、正しい。  名 （　%）	○しんにょうの筆使いができている。  名 （　%）
できていない	△中の中心が文字の中心になっており、文字の中心が左にずれている。 または、そもそも中心が取れていない。  ３名 （９%）	△しんにょうの筆使いができていない。  ３名 （９%）

硬筆における実態調査から、

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

7　指導計画（全３時間　本時１/３時間目）

時間	主な学習活動	○評価

1 本 時	①硬筆と毛筆で「**道**」の試し書きをする。 ②「**道**」の分解文字を操作し、文字の中心と正しいしんにょうの配置を確認する。 ③学習のめあてを知る。 中と外の組み立て方に気を付けて書こう。 ④基準と試し書きを比べ、赤ペンで自分の課題を書き込む。 ⑤課題について話し合う。 ⑥自分の課題解決に向け、練習用紙を作成して練習をする。 ⑦学習の振り返りをし、次時に向けての見通しをもつ。	○試し書きと基準を比較し、自分の課題をつかんでいる。 【思考・判断・表現】
2	①学習のめあてを確認する。 中と外の組み立て方に気を付けて書こう。 ②基準を確認する。 ③書写カードで自分の課題を確認する。 ④自分の課題に向けて、練習用紙を作成して練習をする。 ⑤ペアで書字活動を見合い、アドバイスをし合う。 ⑥課題を意識しながら、まとめ書きをする。 ⑦試し書きとまとめ書きを比較し、自己評価・相互評価を行う。 ⑩学習の振り返りをする。	○課題解決に向け、意欲的に練習に取り組んでいる。 【主体的に取り組む態度】 ○中の部分が文字の中心から少し右にずれていることを理解している。【知識・技能】
	①学習のめあてを確認する。 しんにょうの筆使いに気をつけて書こう。 ②教科書と動画で、しんにょうの筆使いを確認する。 ③練習用紙を作成し、練習する。 ④ペアで書字活動を見合い、アドバイスをし合う。 ⑤しんにょうの筆使いを意識しながら、まとめ書きをする。 ⑥試し書きとまとめ書きを比較し、自己評価・相互評価を行う。 ⑦毛筆で学習したことを生かし、硬筆でまとめ書きをする。 ⑧これまでに学習した漢字一覧表から、しんにょうの漢字を探し、位置関係を確認する。 ⑨学習の振り返りをする。	○「しんにょう」を書くときの穂先の動きを理解して書いている。 【知識・技能】

【日常の手書き文字に生かす工夫】

	主な活動	・留意点　○評価
社会科 「 　」	① ② ③ ④ ⑤自分のめあてを振り返り、自己評価を行う。	・社会科の新聞を書く際、書写で学習したことを生かせるようにする。 ○学習したことを日常の書字に生かそうとしている。 【主体的に取り組む態度】

8　本時の学習　　（1／3時）

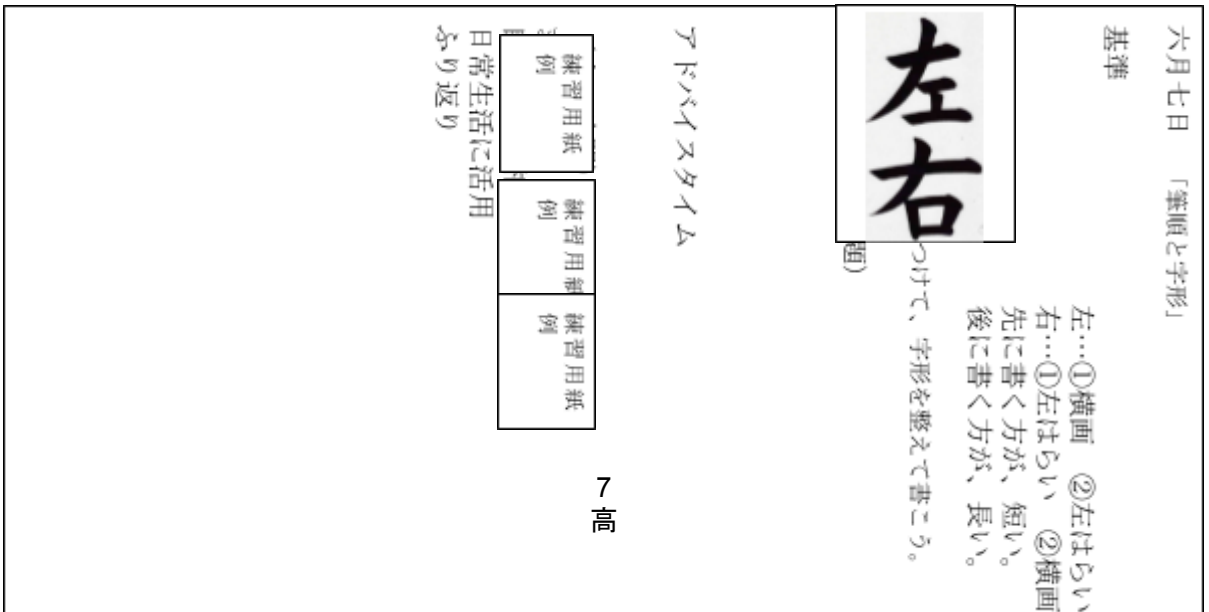
（1）本時の目標

中と外の組み立て方について理解できる。

（2）展開

	学習活動	教師の支援・指導	○評価
課題提示	①硬筆と毛筆で「**道**」の試し書きをする。 ②「**道**」の分解文字を操作し、文字の中心と正しいしんにょうの配置を確認する。 **「首」の中心は、文字の中心から右に少しずれている。** ③学習のめあてを知る。 中と外の組み立て方に気を付けて書こう。	・「首」と「しんにょう」の分解文字を用意し、実際に児童に操作させることより理解できるようにする。	
課題把握	④基準と試し書きを比べ、赤ペンで自分の課題を書き込む。 ⑤課題について話し合う。	・書写カードに自分のめあてを書く。 ・本時及び次時は、文字の組み立て方について練習し、しんにょうの筆使いについては、次回のめあてにすることを確認する。	○試し書きと基準を比較し、自分の課題をつかんでいる。 （試し書き、書写カード） 【思考・判断・表現】
実行・追究	⑥自分の課題解決に向け、練習用紙を作成して練習をする。	・練習用紙の例を掲示する。 ・動画は連続再生して、児童がいつでも見られるようにする。 ・基準を確認しながら課題を意識して書くように助言する。 ・筆の持ち方、姿勢を確認させる。	
まとめ・確認	⑦学習の振り返りをし、次時に向けての見通しをもつ。	・次時は、練習の続き及びアドバイスタイムを行い、中と外の組み立て方についてのまとめ書きを行うことを伝える。	

9　板書計画



10　資料

練習用紙　（児童が作成する練習用紙の例）

